

“広布の全責任を担う”青年部の結成

7月は、男女青年部が結成された月です。1951（昭和26）年の7月11日に男子部が結成、続く7月19日には女子部が結成されました。同年5月3日に「75万世帯の弘教」という誓願を掲げて就任した第二代会長戸田先生は、広宣流布の遠大な未来を展望し、「広布の全責任を担う組織」として、青年部を結成したのです。

「きょう、ここに集まれた諸君のなかから、必ずや次の創価学会会長があらわれるであろう」と、男子部結成式で語った戸田先生の胸中には、会長就任に至るまでの苦闘を共に乗り越え、渾身の薫陶が続いていた池田大作青年の姿がありました。池田先生はつづいています。「師の声を、私は会場の一角で、若き生命に刻みつけていた。それは大難を勝ち越えた師と弟子の二人の儀式であったからだ」



女子部結成二周年記念総会（1953年）

青年の熱と力で、新しき世紀を

続く女子部結成式で戸田先生は「学会の女子部員は、一人のこらず幸福になるんですよ」と、誓いも新たな女子部員たちを包み込むように励まし、幸福境涯を開くために「純粋な、強い信心に生き抜く」ことを訴えて、女子部の前途を祝福しました。

戸田先生はさらに、この年の9月、「班長に告ぐ」という一文を発表します。のちに「青年訓」と呼ばれることとなるこの一文は「新しき世紀を創るものは、青年の熱と力である」という一節で始まります。

「奮起せよ！青年諸氏よ。戦おうではないか！青年諸氏よ」——烈々たる戸田先生の呼びかけに結果をもって応えたのは、ほかならぬ池田青年でした。

青年部の班長、部隊長、やがては全責任を担う室長として、池田青年はあらゆる戦いを勝利で飾り、戸田先生の誓願である75万世帯の弘教達成への突破口を開きます。75万世帯達成を見届けた翌年の1958（昭和33）年、戸田先生は池田室長をはじめとする青年たちに後事の一切を託し、逝去しました。

広布の一切の責任を担い、師弟不二の闘争の先駆を切る青年部の伝統は、若き日の池田先生の激闘により築かれたものなのです。

● コラム

「水滸会」と「華陽会」

戸田先生は青年をこよなく愛し、生涯を通じて青年の育成に心血を注ぎました。

男子部員の集まりである「水滸会」で戸田先生は、『水滸伝』を始め、『三国志』や『永遠の都』など古今東西の一流の文学作品を教材に青年たちを育てていきます。ある時、戸田先生は青年たちの求道心に欠ける態度を厳しく叱り、「水滸会」を解散します。師の厳愛に触れ猛省した青年たちは、池田青年を中心にもう一度「水滸会」の発足を願い出、1953（昭和28）年の7月に再結成を許されました。戸田先生は、広布の未来を担う人材を育てるためには徹して甘えを排し、常に“真剣勝負”で後継の青年の育成にあたっていたのです。

女子部の「華陽会」は1952（昭和27）年10月に、「華のように美しく、太陽のように誇り高くあれ」との戸田先生の思いから結成されました。

そして一回一回の会合は、世界の名著の学習のほか、日常生活や仕事・家庭などの具体的な問題をともに考え、テーブルマナーについても解説するなど細やかで温かな訓練の場となりました。

青年を愛し、全力で鍛え抜いた戸田先生。その精神を受け継いだ池田先生も、青年に対し全魂の激励を続け、限りない期待を寄せています。「創価学会は『青年学会』である。永久に、この活動的な生命を、戦う青年の魂を燃やし抜いていくのだ」

● 参考資料

- ・『人間革命』
第5巻「随喜」「前三後一」
第7巻「翼の下」
- ・『随筆 勝利の光』
- ・『随筆 人間世紀の光』